

**まちづくり常任委員会
行政視察**
10月8日～10日

町の農業振興や地域振興（観光）拠点整備事業の議論を深めるため、10月8日から10日までの3日間で道南の八雲町など4カ所を訪問し研修や視察を行った。

研修地が遠方のために初日は移動日となり、翌日9日朝から八雲町役場を訪問し「農業経営基盤強化促進基本構想」に関する研修を行い、担当課参事より農地利用集積の取り組みや農業



八雲町役場での研修のようす

経営の法人化、新規就農者支援など実際の活動内容の説明をいいただき、質疑を行った。

八雲町の農地区分は、落合地区と石熊地区が園芸野菜や花卉などを中心とする畑作地帯、八雲地区が酪農、水田地区で、それぞれの地区で農地利用が進められ、農業法人が立ち上がっていた。

新規就農者受け入れも活発に行われており、平成20年から今年までに10戸の新規就農があり、更に来年は酪農2戸、施設野菜農家2戸が就農予定となっている。現在、酪農では、メガファームと言われる大規模農場があり、バイオガスパラントを独自で保有し、研修農場として営農活動を行っている。

今年度には町・農協・酪農家で構成する、研修牧場（株）青年舎を創立。育成牛預託や研修生受け入れ、ヘルパー養成や親子食育体験、高齢者・障がい者雇用など多様な事業を展開するメガファームで、総事業費30億



道の駅 あかいがわ

円。令和3年度の営農開始を予定している。

また、八雲町でもバイオマス産業都市構想の認定を受け、研修牧場をはじめとする小規模個人農家を含めたプロジェクトも10年後完了を目指し進行中であった。

午後からは比較的山間部にありながら、道内でも人気のある2カ所の道の駅を視察した。「くろまつない」と「あかいがわ」は共にパン屋が人気で、地元住民にも利用されている。特産品開発は農産物加工センターが活用されていた。また、

地物野菜や果物も人気の商品となっていた。

10日には、小樽市内で創業百二十年の田中酒造で視察研修を行った。田中酒造は幌延町産ミズナラ樽で熟成した日本酒を製造している会社である。

今回、醸造工程等案内をしてくれた専務の岡田氏は「ワイン樽での熟成酒造りは新しい試みで大変楽しみになっていた。今後も続けていきたい。」と語っていた。



田中酒造内見学を行う議員

編集後記

早いもので令和元年も後一ヶ月で終わろうとしており、今年も異常気象による災害が多かった気がします。

私たちの住む地域は比較的穏やかに時を刻んだと思いますが、皆様はどの様に感じていますか。議会はと言うと、町の課題や町民の声を行政に反映すべく取り組んできました。まだまだ物足りなさを感じているかと思いますが、出来るところから行政と議論を重ね、課題解決のために努力していきます。

いよいよ来年度は東京オリンピック・パラリンピックの年となります。より良い開催地を目指して、色々な議論がされていますが、これらの努力が無駄にならずに、ラグビーワールドカップのように国民や世界中の人々に夢と感動を与えられる大会になればと願います。

編集委員長 植村 敦
副編集委員長 岡本 則夫
編集委員 齋賀 弘孝
無量舎 隆

西澤 裕之